



第47号

(発行所)

真宗大谷派

松岡山 廣讚寺

中村区城屋敷町3-30

TEL (052) 411-5301

FAX (052) 411-5341

携帯 090-1568-4623

E-mail: kousan-temple

@trad.ocn.ne.jp

歎異抄という書物に、親鸞と唯円という僧侶のやりとりが書かれています。唯円とは親鸞聖人が言われる念仏の教えをよく聞いた聞法者です。歎異抄とはその唯円という僧侶が書き記した書物です。

その中で、親鸞が唯円に言います。

「今から人を千人殺してきなさい。そうしたら極楽往きは間違いなしだ」

すると、唯円はそんなことはできないと答えます。

そこで親鸞は言います。

「そうだろう、それは自分の心が善いから殺さないわけではない。また、殺すつもりがなくても、百人あるいは千人の人を殺すこともあるだろう。ただただ、人を殺す縁がないから殺さないだけだ」と。

我々はニュースで毎日のように残酷な事件・殺人事件を見ます。しかしそれも所詮は他人事です。ひどい事件だ、お気の毒に、という感情を抱くぐらいでおしまいにしてしまえます。私は人を殺すような人間ではないという立場に立って感じ取っているのです。しかしどうでしょうか。今日、車を運転していて人身事故を起こし、人を殺してしまいかもしれません。はたまた、もし、自分の家族が殺されたら、その殺人者を強く憎み、殺せることなら殺したいと思うのではないのでしょうか。自分が良い人だから殺人をしなかつたわけではありません。今まで人を殺さない縁に生きてきただけだということです。

残酷な事件を起こす人々も、たまたま残酷な事件を起こす縁にあつてしまったわけです。私も、あなたも、縁さえあれば残酷な事件を起こします。そんな世界が娑婆です。同じ娑婆で、同じ人間として生きています。

ニュースの中の世界はテレビの中だけの世界ではありません。私が生きている世界で現実起こっている世界なのです。

廣讚寺物語

伊藤和美

廣讚寺の起源は資料もなく、廣讚寺第二十二代亮昭住職および二十二代文字坊守から聞いた話と、若干の資料をもとに廣讚寺物語をまとめてみます。

今から五百四十年前の西暦一四七三年頃、越前の国松岡から一人の商人が尾張の国那古野村にやってきた。越前の国は今の福井県松岡市で、近くの吉崎には本願寺八代蓮如という僧が寺を作り念仏を広めておられた。

商人が尾張に來た西暦一四七三年、文明四年頃である。その頃尾張の国では戦いつづきであったが、商人は塩の商いで尾張に多くあった城を商い相手とし、那古野城、清洲城、古渡城、守山城、稲葉地城、小牧城と多くのお城をまわり財をなし、大きな屋敷が持てるようになった。やってきた商人の名は塩屋利兵衛という。ふるさとの越前松岡は本願念仏の盛んなところで、本願寺の蓮如上人の影響大である。

西暦一四七七年文明九年、仏縁深い塩屋利兵衛は、住んでいる那古野村より西方の稲葉地の地にあった天台宗の流れの廢寺を手に入れ改築し、新築同様な寺にした。

五人の息子のうち次男を僧にして、寺に任職として送り込みました。

寺の宗旨は故郷越前に多い眞宗とし、山号寺名をふるさとの松岡山廣讚寺と命名した。

任職となった次男の僧名は西玄である。

廣讚寺のお宮さま

伊藤和美

昔々その昔、塩屋利兵衛という人あり。金もちなり。四百五十年前と聞く。西暦一五六十年頃か。桶狭間の戦いは西暦一五六十年である。その頃越前の国松岡より一人の男が尾張の国那古野村にやってきた。

名は塩屋利兵衛、塩の商い人である。西暦一六〇〇年の関ヶ原の戦頃、那古野村近くの稲葉地村の廢寺を息子の一人を僧侶にして改築のすんだ寺を廣讚寺と命名した。宗旨は利兵衛の郷里越前に多い眞宗とした。その後西暦一六一五年の大坂夏の陣に任職の次男が戦死し、廣讚寺に位牌がある。

その頃の習慣で寺を作った人は、神様すなわちお宮を

作る必要があった。寺の近くに売り土地なく、寺より東稲葉地村字八幡の地名をとり、お宮の名を松岡八幡社とした。お祭りには廣讚寺から提灯に灯をつけ、行列をなして八月十五日に盛大に実施された。

神様の名は『誉田別命神』強運、勝利、安全、安産にご利益がある。その後明治二年神仏分離令が発せられ、お寺は松岡氏に、お宮は村の物になった。

その頃稲葉地のお宮は十六あり、それを三箇所に集めた。この八幡社は城屋敷神明社に八社集めたうちの一族で、別に花の木神明社に五社、東宿町の明神社に三社集めた。お宮のあった土地は売りに出したが、八幡社の土地は廣讚寺とわかっていたので売らずにいた。

その後、昭和三十年代に名古屋市が小学校を作るので借用の申し入れがあり、今に至る。

法事の日にはいつにする？

満中陰法要、一周忌法要、三回忌、七回忌、十三回忌、十七回忌・・・と、法事を勤めますが、まずは法事の日にはいつにするかということが問題になってきます。

そのことに関連して、東本願寺のホームページで以下のことが書かれていましたので紹介します。

「法事の日取りは、命日を過ぎてても構いませんし、日の良し悪しを気にする必要ありません。法事を勤めること、私が「南無阿弥陀仏」と念仏申すことに意義があるのです。日取りを気にする心の中に、亡き人に失礼だからとか、バチが当たるからといった思いがありませんか？ そういう気持ちこそ、失礼に当たるのではないのでしょうか。亡き人からの「南無阿弥陀仏と念仏申せよ」という呼びかけによって勤めるのが法事なので、法事は、*“いつかを気にするものでもありませんし、義務として務めるものでもありません。言い換えれば、毎日が法事なのです。毎日、お内仏（お仏壇）の前で手を合わせることを忘れないください”*（東本願寺東京教区ホームページより）

法事は命日より先にやらなければならない、という考え方は根強くあります。命日よりあとにやっつてはいけないうという戒めは、何事にも先延ばし先延ばしにし、もうやめた、ということを防ぐために先人たちが残していったのではないのでしょうか。

吟行てふ

余生賜る

老の春

惠

旅行して俳句を詠むという幸せな老後を楽しませて
いただけることに感謝の気持ち

廣讚寺 団体日帰り参拝ご案内

とき 四月十五日(日)

場所 吉崎御坊

費用 七、五〇〇円

稲葉地JA集合、八時に出発。

加賀で昼食をとった後、吉崎御坊へ向かい、東西
別院でお参りします。途中、嫁おどし肉附きの面
も見学します。その後、さかな街にてお土産を買
えます。帰宅は夕方六時を予定しております。

【行事予定】

二月十一日(土) 七時半 同朋委員会・例会
(役員は七時)

十九日(日) 二時～四時 学習会

二十八日(火) 十時 二十八日講・女人講

三月十日(土) 七時 同朋委員会・総会
(役員は六時)

十九日(月) 二時～四時 学習会

[春季彼岸永代経・蓮如講執行]

二十日(祝) 十時 おつとめ・委員長報告

おとき 説教前田健雄師

一時 おつとめ

三時 帰敬式

二十一日(水) 三時 おつとめ・法話

二十二日(木) 三時 おつとめ・法話

二十三日(金) 女人講・報恩講

十時 おつとめ・住職法話

おとき

一時 おつとめ

二十八日(水) 二十八日講・総会

十時 おつとめ・住職法話
おとき